



# 学校だより

7月号

～ひとがすき まちがすき いわさきの子～  
横浜市立岩崎小学校 電話 331-5123 FAX 331-5343



## まちともに学ぶ ～体験することの大切さ～

校長 小林 雅弘

「校長先生、シオカラ！」思わず食べ物の方を想像してしまいましたが、職員室の前の池に大きなシオカラトンボが飛んできて、腹の先端を何度も池の水面につけ、産卵を行っていました。その様子を見つけた子どもが、私に伝えに来てくれたのです。先日は正門前の電柱の上に、タイワンリスが巣を作り、10分おきにせっせと枯れ木をくわえて巣に戻ってくる姿が見られました。学校のすぐ近くの自治会館の軒下には、ツバメが巣を作り親鳥がひなに一生懸命餌をあげています。生きものたちの強い生命力を感じることができます。それは動物だけでなく、植物も同じです。2年生は今、夏野菜を育てています。「校長先生、私のプチトマト7こもなったよ。」「ぼくのきゅうりはこんなに大きくなった。」中休みに水をやりながら、うれしそうに私に報告してくれる子どもたち。その姿から、改めて実際に見たり触れたりする体験的な学習の大切さを実感しています。

先日、5年生が校庭の端にある田んぼで田植えを行いました。田植えを行うには、まずは水で土を柔らかくほぐす「代かき」をしなければなりません。密にならないよう、時間をずらしながら数人ずつ靴下をはいて田んぼに入り、中を歩きながら土を足でほぐしていきます。「うわ、冷たい。」「足が埋まる～」などと言いつつも、子どもたちは笑顔です。6月15日、梅雨の晴れ間となった青空のもと、いよいよ田植えの日を迎えました。今年度はほどがや元気村(\*)の方々を講師に招き、そのご指導のもと行いました。「田んぼに入るときはつま先から。出るときはかかとから。そうするとすぐに抜けるよ。」「苗は3本くらいで十分だよ。あまり多いと分けつできなくてかえって育たないんだよ。」など、実際に稲作をされている専門の方からのアドバイスに耳を傾けながら、無事田植えを終えることができました。



この他にも、3年生が社会科でまちたんけんをしたり、6年生が総合的な学習の時間で、「ほどがや人・まち・文化振興会」の方々のご協力をいただいて、岩崎のまちの歴史や文化を調べたりする活動を行っています。今年度から小学校で全面実施となった新しい学習指導要領の最も大きな理念は『社会に開かれた教育課程』です。本校の学校教育目標である「ひとがすき まちがすき いわさきの子」の実現のため、今後も地域の方々との協働し、保護者の皆様のご協力をいただきながら、体験的活動を重視した教育の充実を目指していきたいと考えております。

### \*ほどがや元気村

保土ヶ谷に残る唯一の水田で、子どもたちの農体験を通じ自然に親しみながら食育の一端に触れる場所。一年を通じてお米、野菜作りを行いイベントも開催するなど、区民の交流の場をめざしている。

<http://www.hodogaya-links.com/genki/contact/index.php>